

楽踊楽座 全国行脚 記録

行脚 No.23

日時	2013年7月27日
行脚先	喜岡寺
住所	香川県高松市 (讃岐国)
行事名	

特徴

境内はかつて高松城(別名:喜岡城)の本丸でした。
この高松城は現在の高松城(別名:玉藻城)とは別の城です。玉藻城の名前は喜岡城の「高松」を引き継いだものであるため、この一帯は「古高松」と呼ばれ、現・高松市の地名のルーツであると言われていています。喜岡城は建武2年(1335年)に建武の新政で功をあげて讃岐守護となった舟木頼重(後に高松三郎頼重と名乗り、高松庄を領す)が築城するも、同年11月26日に足利尊氏の臣下、細川定禅らの軍勢によって落城します。
しかし頼重は生き延び、子孫の高松左馬助頼邑によって城は再建。その後香西氏に属しますが、1585年(天正13年)4月26日に豊臣秀吉・黒田官兵衛らの四国攻めで、約2万3千人の兵に攻め込まれます。頼邑側は、約200人の兵をもって応戦するも、敢え無く全員が討死し、喜岡城は再び落城しました。この事件をきっかけに讃岐国における戦国時代は終焉し、近世を迎えました。結果的に、ここは讃岐における最後の軍隊同士による戦の舞台となりました。
喜岡寺はそもそも、1229年(寛喜元年)に覚行法親王が常光寺として開基しましたが、焼失し長らく廃寺となっていました。ところが、1592年(文禄3年)に古高松村の旦那衆が常光寺の復活を願って堂宇を建築し、この地がかつて喜岡城跡であったことから喜岡寺として中興しました。

黒田官兵衛との関わり

1585年(天正13年)の豊臣秀吉の四国征伐の際、黒田官兵衛率いる宇喜田秀家・蜂須賀正勝らの軍が同年4月26日に攻め落とします。
官兵衛は周辺の諸城を落とした後、植田城を目指します。しかし、地形を見分ただけで長宗我部親武の守る植田城の守りの堅さを見て取り、おとりと看破。植田城を放置して阿波方面の秀吉軍と合流します。見事、長宗我部元親の目論見を外しました。

記録

